

amazing
THAILAND

タイ ダイビングガイド

Thailand Diving Guide Book





タイの ダイビングが ステキです！

日本各地からバンコクまで飛行機で約6〜8時間。
常夏の国・タイは、カラフルな水中景観に
圧倒的な魚群、
マンタやシンベエザメにも会える
ダイバーの理想郷です。



CONTENTS

- 06 ...アンダマン海について
- 12 ...タイ湾について
- 16 ...ダイビングポイントガイド
- 30 ...タイのお魚図鑑
- 34 ...旅&ダイビングサービス情報



色彩豊かな水中景観がタイの魅力の1つ (K)

万華鏡のような アートの世界へようこそ！



美しく輝くユメウメ
イロの群れ (K)



純白ビーチがまぶ
しい (K)

いつ、どこで潜る？ タイのダイビング

マレー半島の西側に広がるアンダマン海（インド洋）と、東側に広がるタイ湾（太平洋）がタイのダイビングフィールド。この2つの海はエリアによってベストシーズンが異なるため、一年中どこかで最高の海を楽しむことができます。



人気エリアのベストシーズン

タイでは潜るエリアによってベストシーズンが大きく異なります。アンダマン海とタイ湾のタオ島周辺の海況が安定する時期は、それぞれ11～5月、3～10月。いっぽう同じタイ湾でもパタヤではアンダマン海とほぼ同じ11～4月ごろがベスト。一年中温暖なタイでは、ウエットスーツも3～5mmのワンピースでOK。タイの大半のエリアの気候は乾期、

暑期、雨期と大きく3つの季節に分けられ、乾期はだいたい11～4月、一年でもっとも暑い暑期は3～5月、雨期は5月中旬～10月ごろ。雨期といっても30分程度のスコール降る程度で、大きな影響はありません。なお、タイ湾のタオ島周辺では、他の地域と暑期は同じだが、雨期は11～12月、乾期は5～10月となります。

アンダマン海 or タイ湾

アンダマン海はソフト&ハードコーラルの群生が見られ、華やかな雰囲気。潜るエリアは一大リゾート島であるプーケットの北と南に分けられ、北部のシミラン諸島などのポイントが有名ですが、プーケット島周辺の島々をはじめ、沖合にあるトラン方面の人気ポイント「ヒンデーン」など南部も北部同様にカラフルでジンベエザメやマンタに会えると評判。アンダマン海ではリゾート滞在以外にダイブクルーズ^(P6)でも潜ることができます。

いっぽうタイ湾（太平洋）は潮の満ち干が1日に1回（通常は2回）という独特な環境。魚影が濃く、ハゼ狙いの砂地や沈船など多彩なポイントが揃い、ジンベエザメなど大物との出会いも期待できます。有名なのはタオ島周辺ですが、バンコクからのアクセスがいいパタヤ、さらに新たな開発エリアとしてチャーン島も注目されています。



タイにおけるエコ・プロジェクト 「マイバッグやマイボトル活用 キャンペーン」について

タイの天然資源・環境省は、環境保護の強化を目的として、2018年8月12日からタイ国内全ての国立公園（154ヶ所）において、ビニール袋やプラスチック製ストローなどのプラスチック製品、発泡スチロール製の食品容器の持ち込みを禁止するキャンペーンを実施しています。ビニール袋やストロー、発泡スチロールや使い捨てのプラスチック容器を国立公園に持ち込むことが禁止となっていますが、観光客に不便を与える場合は、環境にやさしい布製の袋や容器などが貸し出さ



れています。貸し出しについては、観光客が多く訪れる10ヶ所の海洋国立公園（スリン諸島、シミラン諸島、ピビ諸島、アーントーン諸島、サムイ島、バガン島、タオ島、ホン島など）で行っており、2027年までに海洋廃棄物の50%の削減を目指しています。今後タイの国立公園を訪れる予定がありましたら、マイバッグやマイボトル持参のご協力をお願いいたします。また、2018年よりプーケット、バンガー、クラビ、サムイ島、トラン、ホアヒン、チャム、チョンブリー（パタヤ）、ラヨーン、トラートなどのタイ国内24ヶ所の人気ビーチは喫煙不可となっておりますので、愛煙家の方はスモキング・エリアをご利用ください。

リゾートステイ or ダイブクルーズ？

アンダマン海でのダイビングは、一般的なリゾートステイのデイトリップだけでなくダイブクルーズ（ベストシーズン限定）でも楽しめます。

一大リゾート島プーケットの北側にあるシミラン諸島、スリン諸島は、ポイントまで近いカオラックやプーケット島からのデイトリップやダイブクルーズで潜れます。

プーケット島の南側でのダイビングは、ラチャ・ヤイ島やハー島周

辺のポイントがメインで、プーケット島、クラビ、ピビ島からアクセス可能。沖合にあるトランの人気ポイント「ヒンデーン」などはプーケット島発のダイブクルーズ、もしくはクラビやトラン、ランタ島ステイのデイトリップで潜れます。さらに南方にある「タイ最後の楽園」リベ島をベースに潜るのは、ソフトコーラルの群生が見事なドン島周辺などです。

人気のダイブクルーズとは？

アンダマン海ではダイブクルーズが盛んで、多くのダイビングサービスがダイブクルーズを開催している。ダイブクルーズでは快適クルーズ船で寝泊まりしながら、人気ポイントを潜り渡る“食べて潜って寝る”だけの至福の時間が待っている。1日3～4ダイブが一般的で、多くの船にナイトロックスも完備されている。

数日がかりのクルーズのほか、スピードボートを利用したショートクルーズも人気だ。とくにプーケット島から行く北部へのクルーズは、日帰りから参加でき、人気ポイント（ボン島～リチェリーロック）へも2泊3日という手軽さで人気だ。

ダイブクルーズツアー スケジュール例（5日間・クルーズ3泊4日）

1	午前 日本発、シンガポール、バンコク乗継ぎ（もしくは直行便で）プーケットへ 夜 現地着
2～4	終日 ダイビング
5	朝 下船後現地発、シンガポール or バンコク乗継ぎで帰国へ 夜 日本着

アンダマン海 ダイビング事情

DIVE ANDAMAN ISLANDS



- 01,さまざまなタイプのリゾートホテルが点在するプーケット島
- 02,島の西側に点在する美しいビーチ
- 03,タイならではのエレファントトレッキングも
- 04,タイ式仏教寺院のワット・チャロンはきらびやかで一見の価値あり
- 05,ダイビングは島の南東部にあるチャロン湾から出港

アンダマン海・エリアガイド① プーケット PHUKET

海も陸も大満足♪

タイ最大の島にして、もっとも有名なビーチリゾートだ。島の西側に多く点在するビーチの中でもっともにぎやかなのはパトンビーチ。巨大なショッピングモールや島いちばんのナイトスポットであるバンラー通りがある。宿泊施設やスパも多様で、あらゆるニーズに対応できるのも魅力。時間があれば、ヨーロッパ調の古い建物が続くダウンタウンや、島内最大の寺院、ワット・チャロンなどにも足を延ばしてみたい。

① ダイビング

プーケット発のデイトリップは大型ボート利用の1日3ダイブが一般的で、ダイブクルーズは北部方面（シミラン・スリン）、南部方面（ヒンデーン・ヒムムアン）どちらも楽しめる。ラチャ・ヤイ島など近郊の島々は初心者や体験ダイバーからOK。ピビ島方面にある国立公園はソフトコーラルが豊富で美しく、大物も期待できる。

② アフターダイブ

タイといえばマッサージやスパ。どこにしようか迷ってしまうほどのお店がプーケットにはある。あらかじめ調べて行か、ダイビングショップなどにオススメのお店を聞くといいだろう。またエレファントトレッキングやラフティング、乗馬からATVツアーなどアクティビティも充実している。

SCHEDULE プーケット 1日はこんな感じ (3ダイブのスケジュール例)

- 7:00 起床、朝食
- 7:30 ダイビングサービスのスタッフがホテルにお迎え
- 8:15 港を出港!
- 10:00 ダイビング1本目
- 12:00 穏やかな湾内や島のビーチに上陸して昼食
- 13:00 ダイビング2本目
- 15:00 ダイビング3本目
- 17:00 港に到着
- 18:00 ホテルに到着



ACCESS | 日本からはバンコク経由での空路が一般的。バンコクからはバスでもアクセス可能。ツアーは日本発5日間～だが、羽田発深夜便利用の4日間もある。



アンダマン海・エリアガイド② カオラック KHAOLAK

人気ポイントに近い落ち着いたリゾート地



ブーケットから国道402号線と4号線を海岸沿いに北上、2時間ほど走ったところに現れる海沿いの街が、シミラン諸島への玄関口であるカオラック。北欧の人々が開発をはじめた当初からの落ち着いた大人のリゾートという雰囲気を残しつつも、より便利に過ごしやすい街になってきている。ダイビングポイントが出港するタブラム港あたりから、ビーチ沿いに点々とリゾートが続く。

① ダイビング

シミラン諸島やリチュエロックなどアンダマン海北部を潜るにはカオラック滞在が便利だ。タブラム港からスピードボートでわずか1時間ほどで人気のシミラン諸島方面へ。北部にあるコ・ボン、コ・タチャイも範囲内だ。バンナムケム港からはリチュエロックへのデイトリップも可能。クルーズも多数開催されている。

② アフターダイブ

スパやマッサージはカオラックの街中にも多数あるが、オールインワンのリゾートが多いためどのリゾートでもたいていスパが楽しめる。アクティビティとして有名なのはエレファントトレッキングだが、良質でリーズナブルなゴルフコースがあるのでゴルフもオススメ。またカオソック国立公園では世界最大の花・ラフレシアが生息している。



SCHEDULE

カオラック

1日はこんな感じ

(2ダイブのスケジュール例)

- 8:30 ホテルにお迎え
- 9:00 準備ができたら出港!
- 10:30 ダイビング1本目
- 12:00 種やかな湾内や島のビーチに上陸して昼食
- 13:00 ダイビング2本目
- 15:30 港に到着
- 16:00 ホテルに到着



- 01, ポイントまで近いからリゾートステイでも楽しめる (k)
- 02, 毎晩異なるタイ料理にチャレンジ (k)
- 03, アフターダイブにエレファントトレッキング (k)
- 04, マンタに会える可能性もある北部の海へ (k)
- 05, 美しい無人島に上陸してランチをとることも

ACCESS | ブーケット国際空港から車でカオラックまで約1時間。空港からカオラックへは公共交通機関が少ないので、あらかじめダイビングサービスに送迎の手配を。バンコクの南バスターミナルからバスでのアクセスも可能。ツアーは、日本発5日間がポピュラーだが、羽田発深夜便利用の4日間も可能。

アンダマン海・エリアガイド③ クラビ KRABI

自然あふれる隠れ家

うっそうとしたジャングルと切り立った奇岩に取り囲まれた、秘境リゾートのイメージの強いクラビ。自然豊かなエリアで周辺には130以上の島々が点在し、ダイビングだけでなくスノーケリングでも楽しめる。

まだまだ日本人が少なく、ツアーの多くはヨーロッパ人とあって異国情緒あふれた穴場スポットと言えるだろう。アオナンビーチを中心に、海沿いには小さいビーチに隠れ家的なリゾートが点々と続く。



① ダイビング

アオナンビーチを拠点に、おもにピビ島周辺を潜る。大型ボートでのんびりと2ダイブするスタイルが多い。ナショナルパーク方面やクラビ近郊へ向かう場合もある。人数が集まればスピードボートでヒンデーン、ヒムアンへのツアーも。

② アフターダイブ

アオナンビーチにはスパやマッサージ屋、土産物屋が多数ある。クラビの特徴である切り立った奇岩はクライミングに最適で、初心者でも登れる場所がたくさんあるのでトライしてみてもいい。天然温泉や天然の淡水、滝などのネイチャーポイントも豊富だ。

ACCESS | バンコク経由でクラビ国際空港へ。空港からアオナンビーチまでは車で30分ほど。ブーケットからは車で約3時間。ミニバスや公共のバスが発売している。ツアーは日本発着5日間。

アンダマン海・エリアガイド④ トラン TRANG

あの「ヒムアン」へも日帰り

クラビから南へ車で約1時間半、うっそうとしたジャングルが続く海岸線沿いに小さい集落がポツポツと出現するトラン・エリアは、手つかずの島々を求めて外国人が入り始めたばかり。大自然と、そこに住むローカルの人々とのふれあいが楽しめる。

① ダイビング

本土に近い内湾エリアへはバクメン桟橋からスピードボートで30分以内の範囲に多くのポイントが集まる。沖合に浮かぶ島々へ渡ると、滞在している島周りや外洋のポイントにもアプローズしやすい。ヒンデーン、ヒムアンへも日帰りでトリップ可能。

② アフターダイブ

タイの他のリゾート地に比べ、ナイトライフやアクティビティが極端に少ないのが特徴。満点の星空を楽しんだり、小さなランプでゆっくりと本を読んだり、なにもない贅沢を楽しもう。リゾートさえ選べばオールインワンで必要なものは用意されているので安心。

モラコット洞窟の崖に囲まれた美しい入り江



ACCESS | クラビ国際空港から車で約1時間半。一度クラビタウンかアオナンビーチへ出てからトランへのバスなどを探することもできるが、あらかじめ空港からの送迎を頼んでおくほうがよい。



01,ビーチに立ち並ぶレストランはムード満点
02,ランタから行くポイントの1つハー島
03,リーズナブルに楽しめるタイ料理
04,ビーチで夕景を満喫



アンダマン海・エリアガイド⑤ ランタ島 KO LANTA

静かなヨーロッパリゾート

あの人気ポイント、ヒンムアン、ヒンデーンがデイトリップで楽しめるランタは、クラブエリアに属する島で、ランタ・ヤイとランタ・ノイという2つの島で構成される。海洋国立公園に指定された地域だけに自然豊かで、静かな雰囲気を求める欧米ダイバーが集まって来る。ビーチ沿いに並ぶレストランで夕日を眺

② ダイビング

ランタ島をベースに潜るポイントは、ピビ島からハー島、ヒンデーン、ヒンムアン、ピダ島までポテンシャルの高いところばかり。大型船で行くデイトリップでは、日替わりで各方面へ。ハー島などローカルエリアは1時間半ほど、遠征ポイント・ヒンムアンなどは3時間半ほどかかる。1日2ダイブが一般的だが、リクエストにより3ダイブも可能だ。

③ アフターダイブ

延々と続くビーチを散策しながら、水平線に沈む夕日を眺めるひとときを堪能したら、ビーチ沿いに立ち並ぶレストランでタイ料理を堪能したい。値段もリーズナブルでどれも美味しい。またメイン通りにはお土産店やマッサージ店も多いので、ショッピングやマッサージを楽しんでもいい。

めながらタイ料理に舌鼓を打つ至福の時間は病みつき。日本人の姿もほとんどなく、異国情緒満載のビーチリゾートだ。



海沿いのリゾートは開放的

SCHEDULE

ランタ島
1日はこんな感じ
(遠征ポイントで2ダイブのスケジュール例)

7:00 ホテルピックアップ
7:30 出港(船上で朝食の場合も)
10:00 ダイビング1本目
12:00 ランチ
13:00 ダイビング2本目
16:00 港に到着

写真すべて (k)

ACCESS | バンコク経由でクラビ国際空港へ。クラビ国際空港から車とフェリーを乗り継いでランタ島までおよそ3時間。日本からのツアーは6日間が一般的。



01,素足が心地いいリペヤビーチ (h,k)
02,リペ島の隣・ラウイ島の入り江でランチ (h,k)
03,メインストリートには欧米人好みのレストラン (h,k)
04,夕日がキレイ (h,k)
05,リゾートのプールでのんびり♪

アンダマン海・エリアガイド⑥ リペ島 KO LIPE

ビーチ好き欧米人が通う

リゾート通の欧米ダイバーから愛されているリペ島は、極上のビーチとおしゃれなホテルやレストラン、バーが数多くあるまさに“タイ最後の楽園”の呼び名にふさわしい島だ。島の玄関口となるパタヤビーチ、長く続くサンライズビーチ、夕日が見どころのサンセットビーチなどこも細かい砂で素足が心地いい。マレーシアとの国境近くにあり、観光客は少な目だから、のんびりプライベートを満喫したい人にピッタリの島だ。

② ダイビング

アンダマン海らしいカラフルなソフトコーラルのポイントがすばらしい「コ・リペ・コーナー」。「ストーンヘンジ」、巨大な岩が転がるポイントやエビ・カニやウミウシなどのマクロも楽しめるポイントまで揃っている。小型ボートでのデイトリップで、1日2ダイブが一般的。リクエストにより3本目も。

③ アフターダイブ

ホテルやレストラン、バーが立ち並ぶパタヤビーチでゆったり食事を楽しんだり、ビーチに直接置かれたクッションがうれしいバーでビール片手に星空を眺めたりする至福の時間がたまらない。快適リゾートホテルのプールで泳いだり、スパやマッサージでリフレッシュしたりするのもオススメ。



SCHEDULE

リペ島
1日はこんな感じ
(2ダイブのスケジュール例)

8:45 お店出発
9:00 ビーチからロングテールに乗り、沖合でボートに乗り換え出発
10:30 ダイビング1本目
12:00 穏やかな湾内などに停泊したボート上で昼食
13:00 ダイビング2本目
15:30 ビーチに到着
16:00 ホテルに到着



写真すべて (h,k)

ACCESS | バンコク経由でハジャイ国際空港へ。ハジャイ国際空港から車で約1時間のサトゥン県バックバラから船でタルタオ島経由約3時間。帰りはリペ島からバックバラへの直行便あり。

世界的にも珍しい環境

タイ湾の中でもサムイ島とその北約60kmに浮かぶタオ島は、有数のダイビングフィールドとして知られています。またバンコクから車で2時間ほどのパタヤはアクセスがいいことから多くのツーリストや地元ダイバーに愛されているエリア。最近開発が進むチェーン島への遠征ダイブも行っており、注目されています。

マレー半島とインドシナ半島に挟まれたタイ湾は、外海からの影響を

受けにくい閉鎖海域となっています。その上、日周潮汐という、1日に1度しか潮の干満がない世界的にも珍しい環境。さらに、広大で浅い砂地が広がる湾内に大きな河川が流れ込んでいるので、栄養分が非常に豊富。それらが複合的に影響し合っているためか、同じ魚でも他の場所と比べて極端に大きかったり、同種の魚が異常なほど繁殖していたりして興味深い海でもあります。

世界でもここだけ!? タイ湾の不思議

透明度はアンダマン海側と比べるとやや落ちるが、3～5月や9月の比較的透明度がよくなる時期でもジンベエザメが現れやすいなど、ほかの海の常識(ジンベエザメはプランクトンを食べるため濁っている海でよく見られる)が通用しないことがしばしば起きる。またタオ島周辺のポイントでは、一か所に単一の種センジュインギンチャクの大きな群落があり、共生するハナビラクマノミの数も半端なく多くてまるで群れているような状況や、マルマツカサやタマガシラの仲間が群れている様子が見られるが、これらはほかの海ではまず見かけない不思議な光景で必見だ。

タオ島ダイビングツアー スケジュール例(6日間)

1	午前	日本発、バンコク乗継ぎでサムイ島へ
	夕方	サムイ島着後、ホテルへ。サムイ島泊
2	朝	フェリーでタオ島へ
	午後	タオ島到着後ダイビング
3-4	終日	ダイビング
5		出発までフリー
	夕方	フェリーでサムイ島へ
	深夜	サムイ島発、バンコク乗継ぎで日本へ
6	朝	日本着

タイ湾のダイビング事情

DIVE THE GULF OF THAILAND



サムイ島から遊びに行ける美しいアムトーン諸島



ビーチから見る夕景はどれも美しい

タイ湾・エリアガイド① パタヤ PATTAYA

アジアを代表するリゾート

バンコクから車で約2時間。アクセスのしやすさから旅行者のみならずバンコク在住の人々もダイビングなどマリナクティビティを楽しみに来る一大リゾートエリア。南北に弧を描くように伸びるパタヤビーチの周辺にホテルやレストラン、ショッピングセンターなどが揃う。ビーチにはパラソルが並び、周囲には高層ビルが見えるなどにぎやかで都会的な雰囲気が漂う。



01, 離島でのスノーケリングも楽しめる
02, 約4kmにわたり続くメインのパタヤビーチ
03, 講習も盛んだ(m)
04, パタヤ周辺は魚影が濃い(m)

② ダイビング

サンゴ礁や沈船などが楽しめるタイ海軍により管理されたパタヤエリアと第二次世界大戦中に撃沈された沈船のあるハーディーブなどへのデイトリップのほか、新しく開発中でジンベエザメとの遭遇も期待できるチェーン島へのダイブトリップなどもある。

③ アフターダイブ

ショッピングやマッサージなどももちろん、タイ近海の海洋生物が展示された〈アンダーウォーターワールド・パタヤ〉とラーマ9世ビボン前国王に献上された王室寺院・ワット・ヤンサンワラームといった寺院など、近代的なものと伝統的なものが一度に楽しめる。

ACCESS | 日本からは直行便でバンコクへ。バンコクから車かバスで約2時間。ほかにタクシーなど移動手段はさまざま。

タイ湾・エリアガイド② チェーン島 KO CHANG

タイ最南東の秘境アイランド

プーケットに次ぐタイ第2の大きさを誇る島。10軒ほどあるダイビングショップでは、そのゲストの多くが欧米人ダイバーで日本人ダイバーはまず見かけない。滞在は西海岸に並ぶ美しいビーチ沿いのリゾートホテルなどがメインとなる。発展しつつある自然あふれるビーチリゾートとして注目だ。

② ダイビング

南端にあるバーンバオ湾からダイビングボートが出発。南部に点在する小島周辺と西部にあるムック島周辺を潜る。

生物相は同じタイ湾内であるタオ島周辺と似ている。沈船ポイントも楽しめ、ときにはジンベエザメとの遭遇も期待できる。

③ アフターダイブ

海洋国立公園に指定されているチェーン島ではとにかくその美しい自然を満喫したい。スノーケリングやシーカヤックなどのマリナクティビティのほか、熱帯雨林をゾウに乗って散策するエレファントトレッキングなども。



美しいチェーン島

ACCESS | バンコクから国内線に乗り換え約1時間でトラート空港へ。空港から車とフェリーを乗り継いでリゾートホテルが立ち並ぶ島の西側ビーチへ。



01



02



03



04

タイ湾・エリアガイド③ サムイ島 KO SAMUI

タイを代表するビーチリゾート

ブーケットと肩を並べるタイを代表するビーチリゾートの1つ。ツーリストが主に集まるチャウエンビーチを中心に、ショッピングモールや繁華街が広がる。宿泊施設もバジェットタイプから五つ星リゾートまでさまざまで選択肢は広い。南に隣接するラマイビーチはチャウエンほど人は多くないがナイトスポット、スパなどが充実している。タオ島行きのフェリーが出ているポブットビーチは、古い木造の家が並んでいい雰囲気だ。

① ダイビング

ファンダイブは主にスピードボートを利用してタオ島周辺やセイルロックへ向かう。1日2～3本のダイビングが基本。お昼はマンゴーベイなどに停泊してスノーケリングを楽しむことも。日本からのアクセスがよくリゾートが充実しているためCカード取得講習や体験ダイビングも盛んだ。

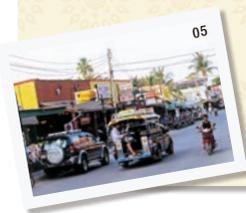
② アフターダイブ

スパやマッサージは数多くから選択できる。島内には滝や奇岩、寺院などさまざまな観光地があり、水族館と併設してトラと写真が撮れるタイガー・ズーやスネークファーム、ビューポイントなど見どころ満載。夜には海沿いでショッピングや食事を楽しむことができる。

SCHEDULE

サムイ島
1日はこんな感じ
(遠征ポイントで2ダイブのスケジュール例)

- 7:10 ホテルにダイビングサービスがお迎え
- 8:00 出港
- 9:00 ダイビング1本目
- 11:00 穏やかな湾内やビーチで昼食
- 13:00 ダイビング2本目
- 15:00 港に到着
- 15:30 ホテルに到着



05

ACCESS 日本からはバンコク経由でサムイ空港へ。各ホテルへはダイビング旅行会社がダイビングショップに送迎を申し込むのが一般的。一番の繁華街であるチャウエンビーチへは空港から15分ほど。ツアーは5日間から。



01



02



03



04

タイ湾・エリアガイド④ タオ島 KO TAO

タイ湾屈指のダイバーズアイランド

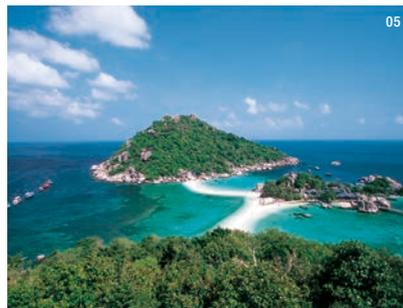
タオ島は南北7km、東西3kmほどの小さな島。花崗岩が積み重なった奇岩が特徴的で、大きさの割に山が高いので人が住んでいるエリアは意外と少なく、ボートの発着場があるメーハードからそれぞれのビーチへと向かう。最も大きいのがサイリービーチで、島内でも栄えている場所だ。開発が進んでいるとはいえ昔ながらの秘境イメージを残したところも多く、島の起伏にあわせて隠れ家的なりリゾートが点々としている。

① ダイビング

島の周辺、そして沖合の岩礁ポイントであるチュンボンピナクル、サウスウエストピナクル、セイルロックをダイトリップで潜る。通常のトリップは大型ボート利用が中心で、最も近いポイントまでは約5分、遠くても40分ほどの距離なので、潜ろうと思えば1日4本、ナイトダイビングも含めると1日5本も可能だ。

② アフターダイブ

秘境ムードを残すタオ島にも近年さまざまなスパがオープン。なかでもジャマクリスパはそのロケーションと内容から人気が高く、予約をしておいてダイビング最終日に行く女性が多い。タイマッサージ屋はそれぞれのビーチにいくつもある。マンゴーベイでのスノーケリングや島周りのフィッシングなどのアクティビティも人気だ。



05

3つの島が白いビーチでつながったナンユアン島

SCHEDULE

タオ島
1日はこんな感じ
(4ダイブのスケジュール例)

- 7:00 ショップ集合、出港
午前中2ダイブ
- 12:00 島に戻り昼食
- 13:00 ショップ集合、出港
午後2ダイブ
- 16:30 島に戻り、後片付け

ACCESS 飛行機でサムイ島を経て船で島へと渡るのが一般的。他にはバンコクからバスや列車を利用してチュンボンシティまで行き、船に乗り換えてアプローチする方法もある。ツアーは夜行便利用で5日間から。

大人気の豪快ポイント

● NORTH POINT ノースポイント

▶ダイブクルーズ
▶デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで1時間、大型ボートで3時間



シミラン諸島の北端にあるNo.9の北側に位置するその名もノースポイント。巨岩が点在するダイナミックな地形景観もさることながら、深場の砂地にいるアケボノハゼやジョーフィッシュといったアイドル魚たちは見えて飽きないし、ときにはマンタに遭遇することもあるという。岩の壁にあるウミウチワの周りには小さなスカシテ

ンジクダイが群れ、浅瀬のサンゴの庭園の周囲にはスズメダイなどのリーフフィッシュが群れ、かなりの確率でウミガメにも会える。運が良ければウミガメの食事シーンを目撃することも。透明度がいいときはとくに気持ちのいいポイントで、ときにトラフザメを見ることができる。



キンガメアジなどの群れも回ってくる（K）



美しいマキウライウオの姿（K）



大迫の巨大な岩を海産の洞窟を走り抜ける（K）



まるで人工物のようにも見える巨岩



川の流れるように魚群が通り過ぎる（K）

No.3の南東から1km以上わたって続くダイナミックな隠れ根ポイント。30m以深から切り立った岩がサメの背ビレのように水面に見え隠れするため、この名がついた。根の東側には人工的に切り取った遺跡のような場所があり、冒険心をそそる。時に流れが速くなることもあり、根のそばで隠れているとイエローバックフエージュラなどのタカサゴ系の魚が川の流れのように通り過ぎていく。根の北側は比較的緩やかなスロープになっており、ウミウチワやハードコーラルが咲き乱れ、砂地にはトラフザメ、ブラックチップシャークなどの大物も出現する。

● SHARK FINREEF

シャークフィンリーフ

▶ダイブクルーズ
▶デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで1時間、大型ボートで3時間



ヤギ類をのぞくとカラハゼの姿が

サメの背ビレを思わせる巨岩が目印



ダイナミックな景観が続く



砂地にはアケボノハゼ

折り重なった岩の間をスイムスルー！

● ELEPHANT HEADROCK

エレファントヘッドロック

▶ダイブクルーズ
▶デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで1時間、大型ボートで3時間



No.7とNo.8の間にあるヒンプサと呼ばれる岩がエレファントヘッドロック。水面に出ている姿が象の頭や背に似ることからこの名がついた。シミラン諸島の中でも地形のダイナミックさでは一番のポイント。水深30m前後から巨大な岩が折り重なり、入り組んだスイムスルーが続く。水中から見上げるとすばらしい岩の景観に圧倒され

る。水底にはアケボノハゼ、ハタタテハゼなども生息。中層から上層にかけてはブルーダッシュフエージュラや、イエローバックフエージュラが川の流れのように次から次へとやって来るとダイビングも佳境。北側にはマンタも時折やってくる大物ポイントでもある。



タカサゴ類の群れが押し寄せ



砂地にはハゼの仲間が多い（K）



日本では見られないコラーレバタフライフィッシュ



ハードコーラルが美しいポイント

サンゴとカラフルフィッシュの楽園

● THREE TREE

スリーツリー

▶ダイブクルーズ
▶デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで1時間、大型ボートで3時間



シミラン諸島の北の端、No.9の北東部をドリフトで潜る。島に生えている3本の木を目印にエントリーするためこの名がついた。見どころはなんといっても水深10m前後に続くすばらしいサンゴ。特に枝サンゴの群生の上にはキンギョハナダイ、デバスズメダイが乱舞し、泳

いでいるだけでも気持ちがいい。癒し系ポイントとしてのイメージが強いが棚の上にはナポレオン、水深20m以深の砂地にはレオパードシャーク、ブラックチップシャークと大物も出現。マクロ系もオーロラバートナーゴビー、ヒレナガネジリンボウ、ジョーフィッシュなどが見られる。



華やかなヤギ類をバックにユカタハタ



地形も楽しめる爽快ポイント

癒し系砂地ポイント☆

5 ANITA'S REEF
アニタズリーフ

≫ダイブクルーズ
≫デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで2時間、カオラック（バンナムケム港）からスピードボートで1時間



岩盤をよく見ると（ハ）セの仲間が（K）

シミラン諸島東側の中でも癒し系ナンバーワンを争うポイント。水深5mほどの棚には、ハードコーラルが生い茂り、インド洋の固有種と言われるコラーレバタフライフィッシュが群れている。水底は白い砂地、そこには何千ものガーデンイルが首を長くしてエサを食べている。ヒレナガネズリンボウやオーロラパートナーゴ

ビーもこのあたりで観察できる。ダイビング後半に現れる、ソフトコーラルで覆われた岩がこのポイントのハイライト。岩を覆い尽くすかのように群れているスカシテンジクダイ、そしてそれを追いかけるカスミアジの群れ。ウミウチワにはユカタハタの姿や、クダゴンベなどのアイドル系の魚も着いている。



愛くるしいクタクコハの姿も



このポイントで現れるマンタは大きな個体が多い

巨大マンタとの遭遇は感動もの

6 KO BON
ボン島（コ・ボン）

≫ダイブクルーズ
≫デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで1時間半、カオラック（バンナムケム港）からスピードボートで1時間



魚群もすごい！

言わずと知れた、アンダマン海を代表するマンタポイント。島の周囲にいくつポイントがあるが、マンタ出現率はウエストリッジ周辺がダントツだろう。タイの海で見られるマンタは大きい、中でもボン島で出現する個体は幅5mほどのものもいて迫力がある。基本的にはリッジ（島から水中に続く尾根）周辺でクリーニングや捕食シーンを狙って待機する。カレントが複雑で強い場合もあるのでむやみにリッジから離れないようにしましょう。1月以降の最盛期には3〜6枚のマンタが頭上をぐるぐる回るとも、なんていうことも。

※ KO（コ）=タイ語で“島”の意

圧巻の捕食ショーは必見

7 KO TACHAI
タチャイ島（コ・タチャイ）

≫ダイブクルーズ
≫デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで2時間、カオラック（バンナムケム港）からスピードボートで1時間



魚群にカスミアジが突っ込む迫力ある捕食シーン

アンダマン海を代表するスーパーポイント

魚影、大物出現率、マクロ生物の豊富さ、どれをとってもハイレベルなアンダマン海随一のポイント。マレー半島岸とスリン諸島の間にある隠れ根で、形はクワワッサンに似ている。潮表になる北側には色とりどりのソフトコーラルが生い茂り、ギンガメアジ、キンセンフエダイ、ヨスジフエダイが常に群れている。ジンベエザメはその群れを割ってダイバーの前に姿を現す。それほど頻繁ではないがマンタも現れる。根の南側、10m前後にはトマトアネモネフィッシュ、水深は少々深いタイガーテイルシーホースとアンダマン海の固有種も豊富。

ほかにもニシキフウライウオやフリンデエビなどカメラ派に人気の生き物も多く、マクロ生物だけでも1ダイブでは足りないほど魅力的なポイントだ。

8 RICHELIEU ROCK
リシェリューロック

≫ダイブクルーズ
≫デイトリップなら、カオラック（タブラム港）からスピードボートで2時間半、カオラック（バンナムケム港）からスピードボートで1時間



突如現れる憧れのシンベエザメ



絵になるきれいなソフトコーラル

スリン諸島とボン島の間に位置する島。美しいビーチが広がり上陸も可能。島からほど近いツインピークスと呼ばれる隠れ根で潜る。お椀を伏せた形のメインの根の北にもう1つの離れ根がある。ツバメウオ、ギンガメアジ、タカサゴといった魚群に事欠かないだけでなく、マンタ、ナポレオン、トラフザメ、ときにはジンベエザメ

まで現れるというオアシスポイント。潮表に行くと小魚を襲うカスミアジが編隊をなしているのが見られる。根の上にはヘラジカハナヤサイサンゴが点々とし、カエルアンコウが隠れていることも。ときに激流になることがあり、カレントフックを使用したほうがいい場合もある。



けなげに口内保育を続けるシロフグ

国立公園に指定されているスリン諸島はアンダマン海の北の端に位置し、ミャンマー国境と接する形になる。港から遠く不便なため、主にクルーズ船からしか潜られていない、手つかずの海域だ。なかでもトリンラ島周辺は比較的潜られているポイント。砂地には無数のジョーフィッシュが生息する場所があったり、メタリックシュリンゴビー、ヒレナガネジリンボウなどのハゼ類がたくさんいたりするなど、見どころは尽きない。場所によってはマッコスカズフラッシュアラスが群れており、たくさんのオスが一言にヒレを広げている。根の周辺ではナポレオンフィッシュやカムリブダイの群れがいて大物も楽しめる。



「スリン諸島」の海に生息するハゼ類

ミャンマー国境近くの手つかずの海

⑩ SURIN NATIONAL PARK スリン諸島

≫ダイブクルーズ
≫デイトリップなら、カオラック(タブラム港)からスピードボートで3時間、カオラック(バンナムケム港)からスピードボートで1時間20分



浅瀬のサンゴも健在



砂地にはハゼの仲間が(K)



胸ビレを広げると美しいカサゴ

岸に近いので多少透明度は落ちるが、魚影の濃さは抜群。周囲に何もない平らな砂地に沈んだ船が魚礁となり、無数の魚たちに取り囲まれている。キンセンフエダイやテルメアジも船を覆い尽くすようにゆっくりと回遊し、ときおり大きなヨコシマサワラが突っ込んできてびっくりさせられることも。沈船にはキリンミノカサゴやヌケヤッコの幼魚などフォト派には楽しい魚たちもいる。ウミウシの数と種類はシミラン諸島よりも多く、1ダイブでさまざまな種類が観察できる。水底にはジョーフィッシュやニシキフウライウオなどの人気者も。セバエアネモフィッシュは希少種なので見逃さない。



人気者のニシキフウライウオにも会える

⑪ BONGSOONG WRECK ボンズーンレック

≫カオラック(タブラム港)からスピードボートで約30分



プーケット発のデイトリップで大物狙い

ラチャ島には多数のポイントがあり、場所によって表情が異なるが、プーケットから一番遠い場所にあるラチャ・ノイは岩の折り重なるダイナミックな水中景観と透明度がウリ。ジンベエザメ、マンタ、バラクーダなどの大物遭遇率も高い。とくに島北部にあるノースポイントや南部にあるサウスチップと呼ばれるポイントには大物、群れが多数出現する。クダゴンベやハタタテハゼ、アケボノハゼなどダイバーに人気のあるマクロ生物も充実している、アンダマン海南部における目玉ポイントの1つだ。島の東側のバナナビーチは癒し系ポイント。

⑫ RACHA NOI ラチャ・ノイ島

≫プーケット(チャロン港)から大型ボートで3時間



ミナミハコブの幼少時代のまんなまるな個体も見かける



プーケットのビーチにも産卵に訪れるよんだ



近づくにつれて威嚇してくるイカ



ツバメウオは樫柱に沈船の周りを泳ぐ

サンゴも沈船も楽しめる

⑬ RACHA YAI ラチャ・ヤイ島

≫プーケット(チャロン港)から大型ボートで1時間半



ラチャ・ノイ島の北側。穏やかなポイントが多くプーケットからのデイトリップでも利用率が高い。東側にはサンゴの群生があり、スズメダイが群れる。沈船ポイントが2か所。西側のポイントはビギナー向けで、のんびりマクロ観察をしたい人にオススメ。



マクロも楽しめる(H)

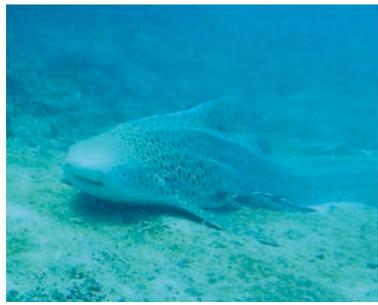
ときどきジンベエも!?

⑭ DOKMAI ドクマイ島

≫プーケット(チャロン港)から大型ボートで1時間半



まるで中国の山水画のような切り立った岩が、外洋にボツンとそびえ立つ。メインで潜る東側のポイントは壁沿いに潜るウォールダイビング。洞窟の内側から外を見ると青い世界が広がる。年に数回ジンベエザメも登場する侮れないポイント。



砂地で見られるトラフザメ (ト)

名物のサメに会えるかな？

SHARK POINT ▶▶ブーケット (チャロン港) から大型ボートで1時間40分

シャークポイント



色とりどりのウミトサカがお花畑のように根を覆い、大きなウミウチワが潮の流れに煽られて、大きく揺れる様はとても幻想的。魚影が濃く、名物のトラフザメをはじめ、固有種も数多く見られる。



美しいサンゴの周辺をハナヒラのように舞うハナミノカサコ

カラフルフィッシュの楽園

ANEMONE REEF ▶▶ブーケット (チャロン港) から大型ボートで1時間半、ピビ島から大型ボートで1時間20分

アネモネリーフ



マリナーパーク内にある隠れ根。インド洋固有種のスカンクアネモネフィッシュが見られ、水深12～16mにはハナミノカサコ多数。中層はアカオビハナダイのコロニーなどで華やか。水深20m前後の水底ではトラフザメが見られることも。

映画『ザ・ビーチ』のロケ地でアドベンチャー

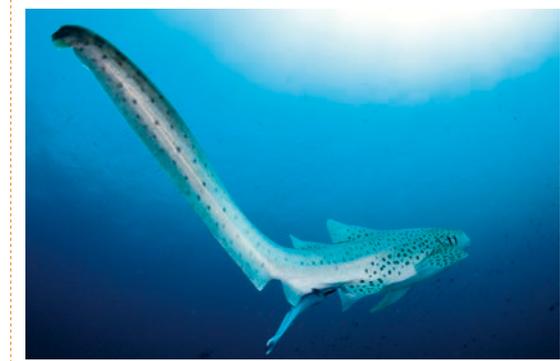
PHIPHILAY

ピピ・レイ島

▶▶クラビ (アオナンビーチ) から大型ボートで2時間、ブーケット (チャロン港) から大型ボートで3時間、ランタ島から大型ボートで1時間半



定番のカクレマンミは数多く見られる



ピピ・レイ島にはアムンサネが泳いで



ソフトコーラルに擬態するゴーストパイプフィッシュ

※2019年3月現在、マヤベイ(マヤ湾)は自然環境保護のため上陸できません。現地にて最新情報をご確認ください。



大物の定番であるウミガメ

ピピ・ドン島から大型ボートで約40分、ピピ・レイ島を越えた先にピダ島がある。ピダ・ノーク島とピダ・ナイ島に分かれており、共通して言えるのはピビ島エリアの中でもジンベエザメなどの大物遭遇率が高いこと。ピダ島以南には島がないため最初に回遊してくる場所がこのようだ。とくに最南部のピダ・ナイ島南部は豪快な

地形で、スイムスルーやドロップオフを楽しめる。カメやレオパードシャークが現れるのもこのあたり。ピダ・ナイ島よりやや大きいピダ・ノーク島はソフトコーラルとハードコーラルが咲き乱れる美しい場所。北部に穏やかなエリアが広がっており、初心者でも楽しめる。



トマトアネモネフィッシュもちらほら



ソフトコーラルの美しさもほかに引けをとらない

タイ語で「5つの島」を意味する、ピビ島南部に浮かぶ群島。周辺に島や陸がないため透明度がコンスタントにいい。いくつかポイントがあり、特にコ・ハー・ヤイ (No.5) にある巨大な洞窟は必見。大きな口をあけた2つの入り口があり、内部のスイムスルーで繋がっている。そのほかにもコ・ハー・ヌア (No.1) のケーブは細い壁穴が水深5mから2つ開いており、それらが岩の中でつながってアルファベットのY形になっている、水深16mで1つの穴から出られる。ここを下からゆっくり浮上していくと、上から太陽光が差し込み、とても幻想的な景観が広がる。ケーブ好きなら間違いなく冒険心をくすぐられることだろう。



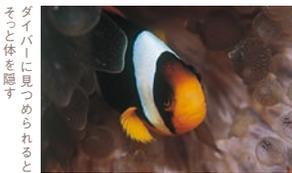
美しい光が差し込み心奪われる瞬間

降り注ぐ太陽光が美しいケーブポイント

KO HAA

ハー島 (コ・ハー)

▶▶トラン (バクメン棧橋) からスピードボートで2時間、ピビ島からスピードボートで40分、ランタ島から大型ボートで1時間30分



ダイバーに見つめられるとそっと体を隠す

大物との遭遇も期待できる豪快ポイント

KO PIDA

ピダ島

▶▶クラビ (アオナンビーチ) から大型ボートで2時間、ブーケット (チャロン港) から大型ボートで3時間、ランタ島から大型ボートで1時間30分



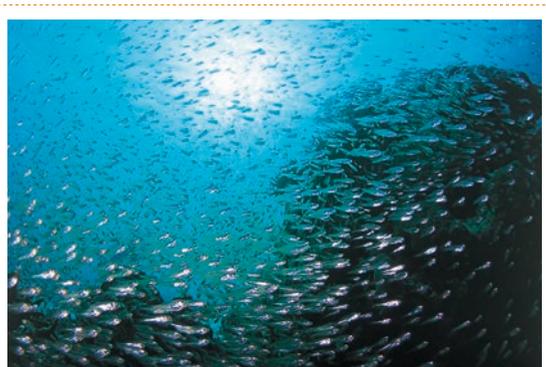
無人島のピダ島は周囲全てがポイント



群を覆うように群れるスズキイシイサメ



フリントエビの食事風景はよく観察できる



視界を覆うように群れるスズキイシイサメ

アンダマン海随一のドロップオフ

HINDAENG ヒンデー

ダイブクルーズ
ダイトリップなら、トラン(バクメン棧橋)からスピードボートで1時間45分、ピビ島からスピードボートで1時間20分、ランタ島から大型ボートで3時間半



ピビ島から南へ約25km、外洋の真ただ中に3つの岩が1mほど顔を出している。タイ語でヒンは「岩」、デーは「赤」。その名のとおりに水深40mからそびえ立つ大きな岩の浅い部分を、赤いインゲンチャクが覆う。岩の南側は水深70mまで落ち込み、タイでも一番の

ドロップオフといわれている。その壁面には、ソフトコーラルやウミウチワが咲きほこり、タツノオトシゴやヨウジウオなどが多く生息する。さらに、グレイリーフシャークやレオパードシャークはごく普通に現れ、マンタとの遭遇率も高い。東側は砂地のスロープが広がっている。



生い茂るソフトコーラルの上を行く心が高揚する

北部のリチエリューロックに対し、こちらは南部アンダマン海の雄といっても過言ではないほど壮大でバラエティに富んでいる。ヒンデーから西へ約300m離れたところに位置する東西に長い隠れ根は、到底1ダイブでは回りきれない大きさ。水深12mから水底は60mぐらいまで落ち込んでおり、透明度がいいと空を飛んでいるような錯

覚に陥る。根の周りには命名の由来となっている紫(タイ語でムアン)のソフトコーラルが生い茂り、棚にはレオパードシャークが横たわっている。根の周りにはさまざまなマクロ生物を発見できるが、マンタ、ジンベエザメがいつ現れてもおかしくないのを見逃さないように注意しよう。



サンゴ群れ、それを取つてもレベルが高い

南アンダマン海の雄。 魚影、スケールともに抜群

HINMUANG ヒンムアン

ダイブクルーズ
ダイトリップなら、トラン(バクメン棧橋)からスピードボートで1時間45分、ピビ島からスピードボートで1時間20分、ランタ島から大型ボートで3時間半



大きなバラクーダが頭上を通り過ぎる



緩やかな斜面の海底には生き生きとしたハードコーラルが



黄色い個体は写真撮影にはおあつらえ向き

黄色いオオウミウマは絶好の被写体

KO MOOK ムック島(コ・ムック)

トラン(バクメン棧橋)からスピードボートで10分



チャオマイ海洋国立公園内に位置する島。メインポイントはヒン・コンディアオ(独り岩)。岩の造形美もさることながら、潮当たりのいい場所に茂るソフトコーラルは見事。オオウミウマの生息地として有名で、20cmほどの黄色い個体が常時4~5匹見られる。

ランタ島の南で、のんびりコーラルウォッチング

内ロック島と外ロック島に分かれるランタ島の南部に位置する島。ランタ島海洋国立公園内にあり、クラブ島に属するが、アプローチとしてはトランエリアからの方が便利だ。岸からの距離があるためシーズンを通して透明度は安定している。ダイビング

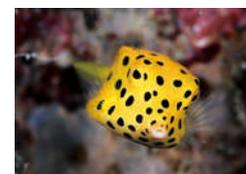
ポイントは内ロック島にあり、水深5mぐらいの棚からスロープを降りて行く。潜り方、海中景観ともシミラン諸島の東側ポイントに非常に似ており、心地いいドリフトダイブが楽しめる。トリップの途中で休憩することの多いビーチは白砂で非常に美しい。

KO ROK ロック島(コ・ロック)

トラン(バクメン棧橋)からスピードボートで25分、ランタ島から大型ボートで3時間半



小魚が舞う癒しの空間



ミナミハコブツの幼魚はどくてもアイトル!



ドロップオフにはウミウシ満載

ウミウシの楽園

KO WEAN ウェーン島

トラン(バクメン棧橋)からスピードボートで10分



ムック島とンガイ島の間にある小さな島。上空から見ると指輪のように見えるので、ウェーン(タイ語で指輪)と呼ばれている。断崖絶壁がそのまま水中へと続く。ウミウシが豊富で、アデヤカミノウミウシやキイロウミウシなど、1ダイブで10種類近く見つけることも。

タイ湾随一の 大物ポイント

● CHUMPON PINNACLE

チュンポンピナクル

▶タオ島（メーハード港）から大型ボートで35分、スピードボートで10分



根の上には面のセージンギンギンチャクの群生が



巨大な群れを形成するオオカマス

タオ島周辺のダイビングシーンを一躍有名にしたタイ湾を代表する大物ポイント。島の北西10kmに位置し、水深30m、岩の頂上が12mの南北に長い隠れ根が横たわる。ジンベエザメ出現率が高いことで有名。根の表面には一面にセンジュインギンチャクが咲き乱れハナピラクマノミが無数に共生している。単一種のインギンチャクがこれだ

けの規模で群生しているのは世界でも稀。中層にはビックハンドルバラクーダ、ジャワラビットフィッシュ、キンセンフエダイやクロホシフエダイの群れが次々と続く。丸々と太ったヤイトハタも見逃せない。安全停止中はツバメウオの姿も。確約できないが、4、5、9月あたりに出現し始めるジンベエザメは根の周りに居つくことが多い。



ジンベエザメは水面から上がるとこのように泳ぐ

チュンポンピナクルに次いで大物や群れ出現率が高く、タオ島を代表する隠れ根。島の南西12kmに位置する。中心となる水深6mの根のトップから、水深25mの砂地まで広がる岩の連なりは、水中山脈のよう。センジュインギンチャクの群生が浅い水深から広がり太陽光の反射でピンク色に輝き非常に美しい。水底近くには通称ブラックコーラルと呼ばれる細い木の枝のような形のサンゴが生い茂り、根の周りをクロリボンスズメダイの群れが覆いつくす。群れにはタイ湾には数少ないハナダイの仲間であるアカオビハナダイが混じっている。シーズンによってはキンセンフエダイ、クロホシフエダイなどの数千匹に及ぶ群れが一堂に会することも。



美しいアカオビハナダイの姿も(M)

ブラックコーラルが演出する独特な景観

● SOUTH WEST PINNACLE

サウスウエストピナクル

▶タオ島（メーハード港）から大型ボートで40分、スピードボートで15分



ブラックコーラルが独特な雲囲気演出(M)



黒い色にブラックコーラルが演出する独特な景観(M)



ギンガメアジの個体数の多さは世界でもトップクラス(M)



地形も楽しめる爽快ポイント

タオ島とパンガン島の間にある岩礁。タオ島周辺の3大大物ポイントのうちの1つ。水底30mからそびえたつ島の周りをゆっくり泳いで一周すると、ちょうど1ダイブで回りきれぬ。水深5～18mまで幅3mほどの縦穴が開いており、まっすぐ下って横穴から抜けると魚たちの群れが待っている。潮のあたる面にはイエローバンドフエダイやピックハンドルバラクーダが群れ、オオクチケカツオやギンガメアジなどもよく現れる。水面近くには100匹ほどのツバメウオの群れ。島周りは大型のアカマダラハタ、ヤイトハタもゴロゴロしているほか、ワヌケヤッコなどカラフルな魚にも会える。サムイ島からはレギュラーでデイトリップが出ているが、タオ島からはスペシャルトリップになる。

圧巻のギンガメアジの群れ

● SAIL ROCK

セイルロック

▶タオ島（メーハード港）から大型ボートで2時間、スピードボートで30分。サムイ島からスピードボートで1時間



根から離れたところにはピックハンドルバラクーダ(M)



根の上にはイバラカンザシがびっしり(M)



ヒブサミノウミウシも見られる(M)



大きな花崗岩が折り重なった地形(M)

カラフルな地形を堪能して

● GREEN ROCK

グリーンロック

▶タオ島（メーハード港）から大型ボートで20分、スピードボートで7分



タオ島に隣接したナンユアン島の北西にあるポイント。メインの岩であるグリーンロックを中心に、陸上の景観と同じような巨大な花崗岩が、水中に積み重なっている。岩壁のオーバーハングになった部分には、カラフルなイボヤギやホヤの仲間が付着していて、そこにタテジマヘビギンボ、ジャンズバイプフィッシュなどがいる。中層の潮の

当る側には、ユメウメイロやササムロなどが群れ、捕食のタイミングを狙うスズアラも回って来る。岩の上にはイバラカンザシがたくさん付いていて華やかな雲囲気を演出。ウミウシも多く、水底と岩の境目にキイロイボウミウシ、安全停止中にはヒブサミノウミウシなどを探ることができる。地形とマクロの両方を楽しむことができるポイントだ。



リーフにタマガシラが群れる、不思議な光景 (M)



中層のユメウメイロがリーフ上に降りて来ることも (M)



海底からそそり立つ巨岩は圧巻

タオ島ならではの不思議な光景

⑦ WHITE ROCK ホワイトロック

>>タオ島（メーハード港）から大型ボートで10分、スピードボートで5分



サイリービーチの沖合、ナンユアン島南に位置する隠れ根。広い範囲に岩が点在しており、砂地のチャネルを挟んで北部をホワイトロック、南部をブラックロックと呼ぶこともある。平均水深8mのリーフの棚から外へと落ち込み始め、15～20mから砂地が広がる。浅場のリーフはさまざまな種類のサンゴが入り混じり美しい。その上に、他の

海では珍しいマルマツカサやタマガシラの仲間が群れているようすは、タオ島ならではの不思議な光景だ。コガネアジやさらに大きなホシカイワリが中層に群れるユメウメイロなどを追いかけて、リーフ上に逃げて来る魚で水底が埋め尽くされることも。岩場の隙間を覗くとアオマダラエイ、ゴルゴニアンシュリンブが入り混じり美しい。その上に、他の

人気のメタリックシュリンブゴビーがいっぱい

⑧ JAPANESE GARDEN ジャパニーズガーデン

>>タオ島（メーハード港）から大型ボートで15分、スピードボートで7分



キュートなチョウウチョウコンのウダイの幼魚も



カラ派に人気のメタリックシュリンブゴビー

ナンユアン島は美しいビーチで3つの島が繋がっており、その北東側がジャパニーズガーデンと呼ばれる。西風を避けることができるのでほぼ穏やかで、水深が比較的浅く初心者も楽しめる。5mから14m付近まではキャベッジコーラルやエダサンゴなどハードコーラルが広がり、ヒレフリサンカクハゼやズメダイモドキなどの非常にコミカルな魚たちの宝庫。砂地は水深16mで平らになり、足の踏み場もないほどにハゼが現れる。場所によっては人気のメタリックシュリンブゴビーが大量発生しているところも。フタホシタカノハハゼの黄化個体も同じ場所にたくさんいる。数もさることながら、ハゼ観察のしやすさはタオでも1、2を争う場所。接近も容易。



ポイントにはナンユアン島の湾内にある



名前の由来はサメの尾ヒレに形が似ていることから

タオ島の南、水中から突き出した岩がサメの背びれに似ていることからシャークアイランドと呼ばれている。島から水中に落ちた岩棚の東側に沿って潜ることが多く、潮が当たる北東の先端にはタカサゴの仲間が集まり、時にはオオカマス、ツバメウオのまとまった群れも現れたりする。南に下るほど潮が速く抜けるので、島の延長上の岩礁にはソフトコーラルが群生。岩場の水底近くには、クロホシフエダイ、タテフエダイ、さらに離れた砂地を探すとメタリックシュリンブゴビーなどの共生ハゼ、レアなゴルゴニアンシュリンブなどを見つけることも。棚上には、青いカイメンが付いているブチウミンシヤが定番。ツキチョウチョウウオが数十匹単位で群れる、美しく珍しいシーンに出会うこともできる。



珍しいキチョウチョウウオの群れは必見！

小物から大物まで楽しめる

⑥ SHARK ISLAND シャークアイランド

>>タオ島（メーハード港）から大型ボートで40分、スピードボートで15分



ブチウミンシヤとその卵は高確率で目にする

ハゼ好きにはたまらない癒し系

⑨ TWINS ツインズ

>>タオ島（メーハード港）から大型ボートで15分、スピードボートで7分



タオ島に隣接したナンユアン島西側に位置する癒し系ポイント。同じような大きさの隠れ根が東西に並びツインロックとも呼ばれる。マクロ系の魚が充実しているのでフィッシュウォッチング派に人気。最大水深が16mとそれほど深くないのでのんびりと根の周りを流すのもいい。黒と黄色の個体が一緒に住んでいるギンガハゼが見られ、レッ

ドマージンシュリンブゴビーなど共生ハゼがたくさん。また浅い砂地に群れるイエローバンドフュージュラが太陽光に反射してキラキラ輝いてキレイ。このポイントで必ずといっていいほど行くのがウアカクマノミのポイント。通常イボハタゴインゲンチャクにつくが、ここでは珍しくマバラシライトインゲンチャクと共生している。



砂地には共生を好むハゼ



真白な砂地が続く開放感あふれる水中



美しいハードコーラルも



ジンベエザメ
Whale shark 8m
なんといっても、ジンベエザメはアンダマン海のトップスター。リチュエーロック、ヒンデンなどで見られることが多い。



マンタ
Manta ray 5m
タイで見られるマンタは5m近くにもなり迫力がある。他ポイントでも見られるが、特にボン島の遭遇率が高い。



トラフザメ
Zebra shark 2m
尾ビレに特徴のある一風変わった外見のサメ。日中は水底で寝ていることが多い。いろいろなポイントで出会う。



カラーレバタフライフィッシュ
Redtail butterflyfish 18cm
つがいでいることが多いが、サンゴの上に20匹ほどで群れを形成することもある。体色が和風で非常に優雅。



スカンクアネモネフィッシュ
Sukank anemonefish 8cm
セジロクマノミに似ているが、れっきとしたインド洋の固有種。背中に入った白いラインが特徴的。



トマトアネモネフィッシュ
Indo tomato anemonefish 10cm
アンダマン海固有のクマノミ。リチュエーロック、ブーケット周辺に多い。幼魚は体に白いラインが入っている。



キンセンフエダイ
Bigeye snapper 20cm
アンダマン海にいる群れとしては普通種。時にダイバーが包み込まれるほどの大きさになり、侮れない。



ギンガメアジ
Bigeye trevally 40cm
「ヒカリモノ」の定番。かなり大きな群れになるが、追いかけてと下へ逃げるのでゆっくりと近づいてくのを待とう。



イエローダッシュフュージュラ
Yellowdash fusilier 25cm
アンダマン海にいる数多いフュージュラの仲間の1つ。次から次へと現れる姿を眺めるのはアンダマン海の風物詩。



カクレクマノミ
False clown anemonefish 8cm
いわずと知れた人気の高いクマノミ。非常に臆病で、共生しているイソギンチャクから離れることはない。



オーロラパートナーゴビー
Pinkbar partnergoby 15cm
ヤノダテハゼのインド洋バージョン。尾ビレの模様につき方が違う。シミラン諸島の砂地に多く生息。



ヒレナガネジリンボウ
Black-rayed shrimpgoby 8cm
なだらかな砂地に住む。流れに向かって捕食を繰り返す姿が見られるが、非常に臆病で近づきにくい。



カスミアジ
Bluefin trevally 50cm
編隊をなして突然現れては小魚を襲うギャング的な存在。大きなものは50cmを超えるので迫力満点。



キンギョハナダイ
Scalefin anthias 5cm
水中を華やかに彩るハナダイの仲間。ソフトコーラルやサンゴの根の周りを取り囲むように乱舞する。



ニシキフウライウオ
Ghost pipefish 12cm
ソフトコーラル周辺を優雅に漂う。出現したらしばらく居つづが、擬態しているので見逃さないように。



アケボノハゼ
Decorated dartfish 10cm
ダイバーに人気のハゼ。アンダマン海では水深20mと比較的浅い水深から見られる。体色が通常よりも黄色っぽい。



マッコスカーズフラッシュャーラス
Mccosker's flasher wrasse 6cm
フラッシュャーと呼ばれるベラの仲間。オスがメスへのアピールのため、ヒレを全開にする姿が見られる。



ブラックピラミッドバタフライフィッシュ
Blackpyramid butterflyfish 15cm
カスミチョウチョウオオのインド洋版。ドロップオフ沿いに群れる。ダイバーには愛称「ブラビ」で通っている。



クダゴンベ
Longnose hawkfish 10cm
美しい体色とフォルムでダイバーに人気。ウミウチワなどについている。必ず同じ場所に帰ってくるので動きを読もう。



アンダマンバタフライフィッシュ
Andaman butterflyfish 15cm
スミツキノサマダイのインド洋版で、青い斑紋がない。夜になると体に黒い斑紋が浮き上がる。



ユカタハタ
Coral hind 35cm
ソフトコーラルがつく根を縄張りにする。サンゴに負けず劣らず派手な体色で写真と撮るときのアクセントとなる。



ハナダイギンボ
Midas blenny 8cm
潮あたりのいい場所でハナダイに混じって泳いでいる。巣穴に戻ったときにちよこんと顔を出すので観察してみよう。



カエルアンコウ
Giant frogfish 15cm
ヘラジカサンゴの間や潮当たりのいい場所にいることが多い。オオモンカエルアンコウは20cm以上にもなる。



アンダマンスイートリップス
Andaman sweetlips 30cm
アンダマン海固有種。ムスジとチョウチョウコシヨウダイを足したよう。テーブルサンゴの下に隠れていることが多い。



エイブルズエンジェルフィッシュ
Eible's angelfish 15cm
インド洋の固有種。アンダマン海ではたくさん見られるが他では珍しい。リーフの間をすり抜けるように泳ぐ。



インディアンスモークエンジェルフィッシュ
Indian-Ocean smoke angelfish 15cm
インド洋の固有種。黄色い尾ビレと黒い顔が特徴。あまり目立たないがよく見ると体色のグラデーションがすばらしい。



インディアンミックスージョンフィッシュ(幼魚)
Indian-Ocean mimic surgeonfish 15cm
インド洋の固有種。幼魚はエイブルズエンジェルフィッシュに擬態している。同じリーフ間をうろうろとしている。



ジンベエザメ
Whale shark 8m
タイ湾といえばジンベエザメ。シーズンになるとオオ島周辺の海域を回遊する。1ダイブ中、ずっと見られることも。



ツバメウオ
Bat fish 1m
数匹から数十匹で群れているさまは見ごたえあり。クリーニングしてもらっていたり、コバンザメが付いていたりすることも。



ヤイトハタ
Malabar grouper 1m
老成したものは1mを超えることも。テリトリーがハッキリしているので、いつも同じ場所で見られることが多い。



アンダマンフォックスフェイス
Andaman rabbitfish 20cm
ヒフキアイゴのアンダマン海版。つがいだリーフ上を泳ぐ。キツネのように突き出た吻が特徴的で水中でも目につく。



インディアンフレイムバスレット
Indian flame basslet 10cm
アカネハナゴイのインド洋版。キンギョハナダイに混じっている。オスがヒレを全開にしてアピールする様子が美しい。



アンダマンダムゼル
Andaman damselfish 4cm
ソラスズメダイに似るアンダマン海固有種。体色がメタリックに輝く。水底に群れながら暮らしている。



オオカマス
Chevron barracuda 60cm
時には数千匹単位で群れを作り、ダイバーを喜ばせる。水深20m前後の根から離れた中層に渦を作って泳ぐ。



テルメアジ
Oxeye scad 20cm
根を包み込むかのように、万単位で群れを形成する。通常は水深15m前後にいるが、浅場で群れを作ることもある。



フヌケヤッコ
Bluering angelfish 40cm
タイ湾に生息する、2種類のキンチャクダイのうちの1つ。インド洋にもいるが、こちらは背ビレにトゲがない。



アンダマンミミックファイル
Andamanmimic filefish 5cm
アンダマン海固有のハギ。フグの仲間であるアンボントビーに擬態している。ガンガゼのトゲの間に隠れている。



インポスターブレニー
Imposter blenny 5cm
イナセギンボのインド洋版。浅いリーフの間を飄々と泳ぐ。よく見るとコミカルな顔をしていてダイバーを和ませる。



タイガーテイルシーホース
Tigertail seahorse 15cm
アンダマン海の固有種。30m前後のオーバーハング下にあるサンゴに巻きついてる。成魚は15cmにもなる。



ツキチョウチョウウオ
Hongkong butterflyfish 15cm
つがいでいることが多いが、時には数十匹単位で群れを形成することも。あらゆるダイブポイントに生息する人気者。



トウアカクマノミ
Saddleback clownfish 10cm
イボハタゴインギンチャクと共生。時にはマバラシライトインギンチャクにつく。探せば各ポイントにコロニーがある。



ハナビラクマノミ
Pink anemone fish 8cm
タイ湾にいる2種類のクマノミの1つ。センジュインギンチャクと共生。根の上に無数に生息する様は圧巻。



ジョーフィッシュ
Jawfish 15cm
アンダマン海では様々なポイントで見られる定番のマクロ生物。ゴールドスペックをはじめ、数種類が報告されている。



ブラックチンスリーパーゴビー
Blackchinsleeper goby 12cm
オトメハゼのインド洋版。違いはこちらはアゴの下が黒いこと。巣穴を作ったり、捕食したりする姿を見ていると飽きない。



イヤースポットブレニー
Earspot blenny 5cm
インド洋の固有種。10m前後の比較的浅いリーフで見られる。エラ蓋の上に耳のような斑点がありかわいい。



ギンガハゼ
Banded shrimpgoby 12cm
青い斑点が非常に美しいハゼ。黄色個体と黒個体があり、同じ巣穴に住んでいることも。通常より一回り大きい。



メタリックシュリンゴビー
Metaric shrimpgoby 15cm
ガレ場に住むハゼ。巣穴からかなり離れて捕食する様が観察できる。体色が美しいため、カメラ派に人気がある。



アカオビハナダイ
Redband anthias 10cm
水深25m前後の比較的深場に生息する。今のところタイ湾ではこの1種類しかハナダイは確認されていない。

おさかな図鑑 | アンダマン海編

おさかな図鑑 | タイ湾編

タイってどんなところ？ 旅の基本情報

TRAVEL INFORMATION

国名>>タイ王国

首都>>バンコク

人口>>6,700万人(2017年現在)

気候>>熱帯性気候。年間平均気温約29℃、バンコクの平均気温は4月が35℃、12月が17℃。11～3月が乾期、4～5月が暑期、6～10月が雨期。

言語>>タイ語(観光地のホテルやレストランでは、英語も通じる)

通貨・両替>>バーツ(Baht)、補助通貨サタン(1バーツ=100サタン)。空港や両替のできるホテルを除いて円やドルは使用できない。到着時に空港で両替を(2019年3月現在1バーツ=約3.5円)。

ビザ>>日本国籍を持ち、タイ入国後30日(29泊30日)以内の観光目的の場合、ビザ無しで入国可能。ただし、国際規定によりパスポートの残存期間はタイ入国時に6か月以上。

>>在東京タイ大使館 VISA 課

Tel.03-5789-2449

www.thaiembassy.jp

>>タイ王国大阪総領事館

Tel.06-6262-9226

www.thaiconsulate.jp

チップ>>タイにはチップの習慣がある。ホテルでは荷物を運んでくれたポーターやハウスキーパーに20バーツ程度。サービス料を含まないレストランで食事をした場合には、料金の10%を目安にテーブルの上に。

マナー>>空港やレストランを含む冷房がきいた建物内では、スモークエリアを除き「禁煙」。路上での吸い殻のポイ捨てはもちろん、ゴミの投げ捨てや唾吐きも罰金の対象になる。マナーを守って楽しい旅を!

VAT(タイの消費税)の払い戻し

>>旅行者は、タイ国内の同一店で同日に購入した合計2,000バーツ以上の買物について7%の税金(ValueAddedTax)分を帰国時に空港で払い戻してもらうことができる。

服装>>1年を通して日差しが強く、高温多湿の気候なので、通気性のいい服装で。敬虔な仏教国であるタイでは、寺院は神聖な信仰の場所。ワット・プラケオ、王宮や一部の寺院ではタンクトップ、ホットパンツなど極端に肌を露出した服装やかかとのないサンダル、ミュールでは入場できない。

電気>>電圧は交流220V(50Hz)で、プラグはBF、Cタイプ。日本の電化製品を使用する場合はプラグ・アダプター・キットを携帯しよう。ノートパソコンのアダプターには220Vでも使用できるものがあるので説明書を確認を。

時差>>日本からマイナス2時間。日本の正午はタイの10時。

フライト情報>>日本(札幌、成田、羽田、中部、関西、福岡、沖縄)からバンコクへの直行便は、タイ国際航空(TG)、日本航空(JL)、全日空(NH)、タイエアアジアエックス(XJ)、スクート(TR)、ノックスクート(XW)、ピーチ(MM)、タイライオンエア(SL)の8社の他、香港、台北、上海、シンガポール、ソウル、マレーシア経由も運航している。

その他の注意事項>>タイでは仏教の日が年に数日あり、それらの日にはアルコール類の販売は法律で禁止されている。また、選挙前日や当日も禁止になる。



タイのダイビングはお任せ!

*印は日本人スタッフなし

ダイビングサービス情報

バンコク

- ゴゴダイバーズ
→gogo-divers.com
- ビッグブルーダイビング
→www.bigbluediving.jp
- マリプロジェクト
→www.marineproject.jp

プーケット

- カタダイビングサービス
→www.katadiving.info
- サンタナダイビング*
→santanaphuket.com
- シービーズダイビング*
→www.seabees.com
- ディーオー
→www.dophuket.com
- ナイスダイブプーケット
→www.nicedivephuket.com
- ブルーマリンサービス
→www.bluemarine-divers.com
- ほうぼう屋プーケット店
→www.houbou-ya-phuket.com

カオラック

- イーダイブ
→www.edivekhaolak.com
- ビッグブルーダイビング
→www.bigbluediving.jp

クラビ

- アクアビジョン*
→www.diving-krabi.com
- コンティキ クラビダイビング & スノーケリングセンター
→www.kontiki-krabi.com
- ザダイブアオナン
→www.thediveaonang.com

トラン

- トラベルトラン
→www.trang-travel.com/diving/trang.htm

パタヤ

- マーメイドダイブセンター
→www.mermaidsdivecenter.com
- www.teamjapandiving.com
- マリプロジェクト
→www.marineproject.jp

チェーン島

- ビービーダイバーズ
→www.bbdivers-koh-chang.com

タオ島

- コーラルグランドダイバーズ
→japancoralgranddivers.com
- サムイダイビングサービスたおみせ
→www.samuidiving.net
- バンドダイビングリゾート
→www.bandsdivingjapankohtao.com
- ビッグブルーダイビング
→www.bigbluediving.jp
- ブッダビューダイブリゾート
→www.taotou.com
- ほうぼう屋タオ島店
→www.hobo-ya.com/kohtao

サムイ島

- スキューバブルーワールド
→www.samui-sbw.com
- ディスカバリーダイバーズ
→samuidiscoverydivers.com
- ほうぼう屋サムイ店
→www.houbou-ya.com

いざという時には

外国人観光旅行者の安全を図るために、ツーリストポリスが設けられているのでトラブルが発生した場合は連絡を(英語)。

ツーリストポリスセンター
局番なし 1155(英語)
www.thailandtouristpolice.com

その他の連絡先

在タイ日本国大使館 領事部
177 Witthayu Rd., Lumpini, Pathum Wan, Bangkok 10330

Tel.02-207-8500または
Tel.02-693-3000(代表)

邦人保護

Tel.02-207-8502
www.th.emb-japan.go.jp

発行=タイ国政府観光庁 ●企画・制作=ダイバー株式会社

●編集=渡井久美、岡 弥生 ●デザイン&DTP=田端重彦(PanariDesign)
●写真=楠哲也、越智隆治(o)、鍵井靖章(k)、高見沢昇治(t)、古見きゆう(f)、永嶋奏子(n)、畑幸佑(h)、細田健太郎(h.k)、増子均(M)、Mermaids Dive Center(m) ●文=楠哲也、岡弥生

※本誌掲載内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。



タイ国政府観光庁

東京事務所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-7-1 有楽町電気ビル南館 2F Tel.03-3218-0355 Fax.03-3218-0655 info@tatky.com
大阪事務所 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町 1-4-26 ニッケ四ツ橋ビル Tel.06-6543-6654/6655 Fax.06-6543-6660 info@tatosa.com
福岡事務所 〒812-0027 福岡市博多区下川端町 2-1 博多リバレインイーストサイト 11F Tel.092-260-9308 Fax.092-260-8181 info@tatfuk.com

www.thailandtravel.or.jp (日本語) www.tourismthailand.org (英語)
www.thailandtravel.or.jp/diving

thailand_jp @tat.jp タイ国政府観光庁 @tat_jp



バンコク (ヘッドオフィス)

1600 New Phetchaburi Rd., Makkasan,
Ratchathevi, Bangkok 10400
Tel.02-250-5500 Fax 02-250 5511
TAT コールセンター 局番なし1672

バンコク (インフォメーションオフィス)

4 Ratchadamnoen Nok Avenue, Bangkok 10100
Tel.02-283-1556 毎日08:30~16:30
スワンナプーム国際空港 (インフォメーションカウンター)
毎日24時間 到着階 (2階) の出口③番付近

バタヤ オフィス

609 Mu 10, Pratamnak Rd., Tambon Nong Prue,
Amphoe Bang Lamung, Chon Buri 20150
Tel.038-427-667 Fax.038-429-113

ラヨーン オフィス

153/4 Mu 12 Sukhumvit Rd., Tambon Taphong,
Amphoe Muang, Rayong 21000
Tel.038-655-420 Fax.038-655-422

トラート オフィス

100 Mu 1 Trat-Leam Ngop Rd.,
Tambon Laem Ngop, Amphoe Laem Ngop Trat 23120
Tel.039-597-259 Fax.039-597-255

プーケット オフィス

191 Thalang Rd., Thaladyai,
Muang District Phuket 83000
Tel.076-211-036 Fax.076-213-582

クラビ オフィス

292 Maharat Rd., Amphoe Muang Krabi, Krabi 81000
Tel.075-622-163 Fax.075-622-164

トラン オフィス

300/3 Huay Yod Rd., Amphoe Muang Trang,
Trang 92000
Tel.075-215-867 Fax.075-215-868

スラーターニー オフィス

5 Talat Mai Rd., Ban Don, A. Muang,
Surat Thani 84000
Tel.077-288-818 Fax.077-282-828

サムイ オフィス

370 Mu 3, Tambon Ang Thong,
Amphoe Koh Samui, Surat Thani 84140
Tel.077-420-504 Fax.077-420-721

チュンブーン オフィス

111/11-12 Taweekinska Rd., Tambon Thatapao,
Amphoe Muang, Chumphon 86000
Tel.077-501-831 Fax.077-501-832

ハジャイ オフィス

1/1 Niphatuthit 3 Rd., Amphoe Hat Yai,
Songkhla 90110
Tel.074-231-055 Fax.074-245-986

ナコーンシータマラート オフィス

Sanamnueang, Ratchadamnoen Rd.,
Amphoe Muang, Nakhon Si Thammarat 80000
Tel.075-346-515 Fax.075-346-517

ナラーティワート オフィス

102/3 Mu, Narathiwat-Takbai Road,
Kaluwor-Neur, Muang District, Narathiwat 96000
Tel.073-522-411 Fax.073-522-412